

(公開学習 I) 小学校第 3 学年 1 組 図画工作科 学習指導案

授業者 妻藤 純子
小学校 図工室

1 題材名 みて きいて かんじて お話しよう ～色の気持ち～

2 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

- B 鑑賞 (1) ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。
イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

美術作品を鑑賞することは、上学年において取り組まれることが多いと推察される。本校では作品を見ることに何の構えもない年齢の児童だからこそ、直感的に感じとったことを素直に言葉で表現することができ、このことは多様なもののみ方や感じ方を育てる一助になると捉え、低学年から美術作品の鑑賞に取り組んできている。

本題材は、作品全体から受ける印象をもとに行ってきた鑑賞から一步踏み込んで、造形要素に視点を当てて鑑賞することで、より深く作者の思いや表現の工夫を感じていこうとするものである。本時は、造形要素の1つである色に着目し、色からも作者の伝えたいことが読みとれることに気づかせることをねらいとしている。色から読みとれる内容として、季節、時間、天気など描かれている場面の様子や作者の心情などがあると考え、また作者の伝えたい内容によっては、私たちが持ち得ている色の既成概念とは異なった色で描かれていることも少なくない。作品鑑賞を通して、色への既成の概念をくずし多様な色による表現工夫を知ることは、児童個々の表現活動の幅を広げると考え、本題材を設定した。

本時で鑑賞する作品として、モネの「積み藁 (連作)」とシャガールの「エッフェル塔と新婚の二人」「窓から眺めたパリ」を選択した。モネは「光の画家」と呼ばれ季節や時間とともに変わっていく光と色彩を追究した画家である。「積み藁」は連作でどれも同じような構図で描かれており、1枚ごとに季節や時間、気温などの移り変わりが表現されている。モネの作品の中でも、児童には色の変化を比較しやすく、それらの内容に気づきやすいのではないかと考えている。シャガールは「色彩の詩人」と呼ばれるほど、豊かでその独特な色づかいはみる者の想像力をかき立ててくれる。「エッフェル塔と新婚の二人」は画面のほとんどに赤が使われていることと、作品のテーマが構図からわかりやすいという点において、この作品に込められた作者の気持ちと色との関連が想像しやすいのではないかと考える。色で気持ちを読みとるという抽象的な活動が児童にとって想像しやすいものになるのではないかと考えている。眼で感じとったことを色で表す表現から心で感じとったことを色で表す表現へと段階を追った鑑賞をしていくことで、児童一人一人のもののみ方や感じ方の深まりに期待したい。

(2) 子どもと教師

本校の図工科で位置づけている美術鑑賞は、「作品主体の鑑賞から子ども主体の鑑賞へ」ということである。つまり作品があるから児童にみせるというのではなく、子どもの実態をもとに明確なねらいをもち、ねらい達成のための作品は何かを考えるということである。そして、選択した作品をどのような「しかけ」で提示し鑑賞させていくのかを考えながら授業を組み立てていくことになる。作品の選択と鑑賞のしかけが授業づくりの重要なポイントとなる。

本学級の児童は、2年生時から美術作品の鑑賞の学習を積み重ねている。2年生では、まず鑑賞することや友だちと感じたことを共有することの楽しさを感じさせることに重点を置き、作品全体から作者の思いや意図、表現技法などを感じ取ってきた。そして3年生では、作品全体の印象の鑑賞から

造形要素に視点を当てた鑑賞に取り組んでいる。「線のきもち」の学習では、線から作者の思いや意図などを感じとった。この学習で児童は、線の太さや強さの違い、かすれなどに気づき、そこから描く速さや手の動かし方などを予想し、作者の伝えなかった思いや絵の情景に迫ることができた。本時は、線よりも個々の感じ方が大きくことなる「色」という造形要素を扱うが、結論を導き出すのではなく多様なもののみ方や感じ方のおもしろさを味わわせたいと考えている。児童の感性から導き出された価値観や作品に対する意味づけを大切にしていきたい。今後の鑑賞の学習では、「かたちのきもち」の学習を予定している。造形要素を取り出して鑑賞することを通して、1つの事柄からも多角的なもののみ方や感じ方ができること、作品にかける作者の思いと自分なりのこだわりをもって制作する意味に気づかせることは、ものをみたり感じたりする力だけでなく、児童のものづくりの力を育むことにつながると考えている。

(3) 子どもと教材

本時の学習では、色に対する概念くずしを図ることをねらいの1つとしているので、「リンゴの色は赤」といった身近な色に対する既成の概念が一般的にあるということに気づかせることから始めたい。作品を提示し、眼でみた色から心でみた(感じた)色と段階的に鑑賞させていく。まず既成の色にとらわれない作家ならではの「色」があることに気づかせ、次に色で季節や時間、天気など眼でみた事柄が表せること、最後に作家の気もちや感じたことを表そうとした「心の色」があることに気づかせたいと考える。

既成の概念くずしの段階では、作品の一部分だけがみえるようにし、色に着目しやすくなるようにする。そして色から想像できるモチーフを発言させることで、自分のもっている概念を明らかにし、その概念も人によって異なることに気づかせたい。また、色によって様々に想像をふくらませることができることも友だちの発言を聞きながら感じさせたい。眼でみたことを表す色に気づく段階では、モネの作品を比較することで、色の違いによってどんなことがみえてくるか考え、自分なりの理由づけを明らかにしながら発言させたい。児童の発言した言葉をもとにしながら、「季節」「時間」「天気」などの事柄をまとめていく。児童の暮らしの中で体験したことをもとにした発言が多いと予想されるので、日常の自然を想起させることで、イメージが具体化するようにする。心で感じたことを表す色に気づく段階では、シャガールの作品を鑑賞し、色が表す様々な事柄を想像させることで、作者がどんな気もちで描いたのか、何を伝えようとしたのかをみつけさせていきたい。心象表現をとらえ理解することは、この学年の児童には容易なことではない。そこで、作品名をヒントにするなど、どんな場面が描かれているか考えた上で作者の気もちに迫らせたい。また、自分だったらどんな色で気もちを表すかなど自分と絡めさせることで、想像がふくらむようにしたい。そして児童が個々に感じたことを素直に発言させ、互いの感じ方の相違点やよさに気づき、感じたことを伝え合う楽しさを味わわせたい。そのためにも教師は、児童相互の気づきや感じたことをつなげる言葉かけをしていきたいと考える。

3 題材の目標

- ・美術作品の鑑賞を通して、色にも作者の気もちや感じたことが表されていることに気づき、自分のもっている色の概念を広げる。
- ・自分の気づいたことや感じたことを友だちに伝えたり、友だちの思いをきいたりすることで、互いの感じ方の相違を楽しむ。

4 学習計画(全1時間)

造形要素の1つである色に着目しながら美術作品を鑑賞し、作者の感じ方や伝えたいことを探る。

5 本時の学習について

(1) 本時目標

- ・モネやシャガールなどの作品を色に着目して鑑賞することで、色にも作者の気もちが表されているなど、色によって描く人の思いやその作品の情景がみえることに気づく。
- ・気づいたことや感じたことを友だちと伝えあうことを通して、互いの感じ方や気づきの違いのお

もしろさを楽しむ。

(2) 期待される児童の様相

- A 作品の色のもつイメージから作者の気持ちをみつけ、自分と友だちの感じたことを比べながら話したり聞いたりする。
- B 色に着目して鑑賞し、色のもつイメージから自分なりにみつけた作者の気持ちを話す。
- C 作品の色から自分なりに作者の気持ちをみつける。

(3) 準備

美術作品（作品集，鑑賞用教材より），プロジェクター

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学習活動	教師の支援・意図
<p>1 今までの学習をふりかえり，今日の学習を知る。</p> <p>2 「色からみつけたクイズ」をし，色を見て何が描かれているのか予想する。 ・ゴッホ＝「食事」（バナナ） 「白い馬」（馬）</p> <p>3 描かれている「色」に着目して絵をみる。</p>	<p>○今までの鑑賞の学習を想起させることで，今日は造形要素の1つである色に着目していくことへ意欲をもたせたい。</p> <p>○リンゴ，木，陰，土（地面）などの色を質問することで，すでに個々の中に概念化された色があることに気づかせたい。</p> <p>○ゴッホの作品に使われている色に着目することで，自分のもっている色への固定概念をくずし，色に対するイメージを広げる。</p> <p>◇作品のほとんどを隠し，部分をみせることで，色を意識して作品に描かれているものをイメージできるようにする。</p> <p>○徐々に作品全体をみせるようにすることで，何が表されているのか想像しながらみる楽しさを味わわせるとともに，自分の予想と作品の内容との整合性への期待感をもたせたい。</p> <p>◇色からイメージしたことを理由をつけて話させるようにすることで，同じ色でも人によって感じ方が異なることに気づかせたい。</p> <p>◆挙手した児童の発言だけでなく，つぶやきも拾うことで，自分の感じたことや思ったことに自信をもたせるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 色から作者のどんな気持ちがわかるかな。 </div> <p>①モネ＝「積み藁」連作 ②シャガール ＝「エッフェル塔と新婚の二人」 「窓から眺めたパリ」</p>	<p>○作品全体をみて，色からどんなことがわかるかみつけさせる。</p> <p>◇まず，モネの2作品を比較させることで，色の違いからどんなことがわかるのかをみつけやすくする。</p> <p>○色から「光（太陽の位置）」「温度（気温）」「時間」「天気」「季節」「味覚」「作者の気持ち」など，多くの事柄が読みとれることに気づかせたい。</p> <p>○色は，直接眼でみることでできないものやことばでうまく言えないようなことも伝えることができそうだとということに気づかせる。</p> <p>◇なぜ作品のような色を使ったのか問うことで，作</p>

4 身近にあるものの色をイメージする。

者の意図や気持ちを考えさせる。

- ◆児童が発言した言葉を用いて感じたことをまとめることで、それをヒントにしなが自分なりのイメージをもてるようにする。
- ◆児童相互の発言をつなげる言葉かけをすることで、友だちの感じたことと比べながら発言することを意識させる。
- 児童の感じたことを仲間分けし、色からわかることを事柄別にまとめることで、眼でみた色と心でみた（感じた）色があることをわかりやすくする。
- 作品に使われている色が別の色だったらと問うことで、使う色によって作品全体の印象が大きく変わることに気づかせたい。
- シャガールのやろうとしたことを伝えることで、同じ色でも多様な感じ方や作者の表現意図があることを確認する。
- 再度、リンゴ、木、地面などについてどんな色が聞いてみることで、自分の抱いていた色への概念が変わったことを実感させたい。
- 最初の概念どおりにイメージできなくなった児童を紹介することで、今後の活動の意欲づけにした